

栗の一大産地に残された

親鸞上人の伝説

—— 笠間市福原・不動坂

秋は日本に実りをもたらす季節です。稲の収穫はもちろん、さまざまな果実も実を付けてくれて人々に多くの恵みを与えてくれます。

茨城県笠間地区はそのような秋の代表種・栗の一大産地です。日本有数の生産量を誇る笠間の栗は全国各地へ送られ、和菓子や洋菓子など今では欠かせない存在となっています。その笠間の地にひとつの栗にまつわる伝説が残されています。それが浄土真宗を開いた親鸞上人の不思議なお話です。日本を代表する僧侶であり、誰もが知っている親鸞は京都に生まれ、比叡山で修行し、やがて宗教弾圧により越後(新潟県上越市付近)に追放されます。その後許され、その身は自由になり、親鸞は自らの布教活動のために現在の笠間市稲田に住居を構えたのです。

稲田を拠点に各地へ出向いた親鸞ですが、常陸国府(現石岡市)方面には当時としては険しい峠道を越えなければなりません。



その道は笠間と石岡をつなぐ板敷峠へとつながる道でした。山道は崖に面したものでいつからか不動明王がまつられていて、不動坂と呼ばれていたそうです。

この峠道に親鸞は越後から持ってきた栗の木を植えました。その栗の木は最初、下の枝に花が咲き、実を結びます。下段が熟する頃に中段の花が実を結び、さらに上段の枝が実を結ぶという栗の木だったそうです。

ひとつの栗の木が三回にわたって実を結ぶことから「不動坂の三度栗」と呼ばれるようになりました。

親鸞に関する伝説は県内各地に残されていますが、秋の味覚の代名詞である栗にまつわる「三度栗」。今では味わえないかもしれませんが、ぜひこの秋、笠間の栗を味わってください。

〈参考文献〉茨城と親鸞「今井雅晴著 ほか



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>